

Newsletter

JAPAN SOCIETY OF EDUCATIONAL INFORMATION

日本教育情報学会

NO. 172 2020. 1. 15

〒659-8511 兵庫県芦屋市六麓荘町 13-22 芦屋大学技術研究棟 若杉研究室
日本教育情報学会 運営本部事務局 TEL: 090-1026-1413 FAX:050-3488-5061
E-mail: jsei@ashiya-u.ac.jp http://jsei.jp/home/

＝ 日本教育情報学会 第 36 回年会 ＝

開催日：2020年8月22日（土）・23日（日）
会場：札幌学院大学
テーマ：AI時代を見据えた教育の在り方

第36回年会は北海道の地、札幌学院大学で開催されます。北海道は、東端から西端まで約500km、北端から南端まで約400kmあり、広大な地域に179の市町村が点在しています。いま、北海道においても少子高齢化や地方の過疎化が進行し、学力の地域間格差が広がる一方で、インターネットや電波通信網が発達し、子供たち、若者たちは都市と地方の差を感じずに、情報の共有や取得を行い、種々のサービスを受けることができるようになっていきます。例えば、北海道の北や東の端に住んでいても、ネット通販で買い物をする事ができるのです。

前回年会のキーワード「超スマート社会」は、「サイバー空間と現実社会が融合した社会」でした。程度の差はありますが地方においても何らかの形で、実現されつつあるように思います。そのような社会において、人間の営みを支援する手段の1つとしてAI（人工知能）の役割が増していくのは、疑いのないところでしょう。しかしながら、AIを冠した、情報サービス、情報処理ツールが、多くの場合には、その実体が正しく理解されないまま、日常生活に浸透しはじめていることも事実です。次の世代を生きる子供たち、若者たちが、これらのサービスやツールの基礎知識を持ち、提供された情報を無批判に受け入れることなく、主体的・理性的に活用できるようにしていくための、学校教育の方向性を探ることは我々にとって1つの課題であると考えます。

この年会在、そのような課題の解決に向けて、さまざまな角度から検討・検証する場となることを願います。各分野の専門家の方々に幅広い視点からこのテーマに取り組んでいただき、8月の北海道で活発な議論ができれば幸いです。北海道の大地がみなさまを歓迎いたします。

第36回年会実行委員長 皆川 雅章

開催日：2020年8月22日（土）・23日（日）

会場：札幌学院大学

<所在地> 〒069-8555 北海道江別市文京台 11 番地

<大学 HP> <http://www.sgu.ac.jp>

事務局：日本教育情報学会 第36回年会実行委員会

<所在地> 〒069-8555 北海道江別市文京台 11 番地

札幌学院大学 皆川研究室

<E-mail> jsei-nenkai@jsei.jp

年会 HP：<http://jsei-nenkai.jp/>

後援：北海道教育員会（予定）、江別市教育委員会（予定）

日程（予定）

<1日目> 8月22日（土）		<2日目> 8月23日（日）	
8:30～	受付	8:30～	受付
9:30～12:30	課題研究発表	9:30～11:30	課題研究発表 一般研究発表
12:30～13:30	昼食・理事会・評議員会	11:30～12:30	昼食
13:45～14:30	総会・学会賞表彰式	12:30～14:30	一般研究発表
14:30～15:00	企業ブリーフィング		
15:00～15:50	研究会活動報告		
16:00～18:00	シンポジウム		
18:00～	懇親会		

※変更が生じる場合がありますので、最終版のプログラムにてご確認ください。

【1】 シンポジウム

テーマ：AI時代を見据えた教育の在り方

■問題提起

「2030年を見据えた日本の教育の変革(提言)」

安達一寿（十文字学園女子大学）

■シンポジウム

登壇者： 日本教育情報学会研究会委員会
コーディネータ：久世 均（岐阜女子大学）

令和元年5月17日付教育再生実行会議で提言された「技術の進展に応じた教育の革新、新時代に対応した高等学校改革について（第11次提言）」では、次のような提言がなされている。「第4次産業革命とも言われる、AIやロボティクス、ビッグデータ、IoTといった技術の急速な発展に伴い、我が国において Society5.0と言われる超スマート社会が到来しつつある。その一方で、AIの発達により今ある仕事の多くが消滅したりAIに代替されたりする可能性が指摘されるなど、情報技術は単なる手段にとどまらず、我が国の社会や産業、また私たちの生活環境に根本的な変革をもたらす。

今後更に加速化するであろう、こうした様々な社会の変化に対して、子供たちが受け身になることなく、その中から積極的にチャンスを見つけ、それを活用し、活躍していくことができるよう、教育を通じて必要な資質・能力を育成していくことが大切であり、そのためには2030年を見据えた日本の教育の変革について大胆にスピード感を持って進めなくてはならない。」

また、平成31年4月17日付けの「新しい時代の初等中等教育の在り方について」では、「これからの時代の学校は、教師を支援し教育の質を高めるツールとして情報通信技術(ICT)やAI等の先端技術を活用することにより、地理的制約を超えて多様な他者と協働的に学ぶことを可能としていくことや、一人一人の能力、適性等に応じた学び、子供たちの意欲を高めやりたいことを深められる学びを提供していくことが可能となる。」と提言している。

そこで、これらの提言を踏まえ、日本教育情報学会の年会のシンポジウムでは、本学会の研究会から「2030年を見据えた日本の教育への提言」として、学会員の皆様との議論を通して、今後の研究会の研究活動の方向性を改めて再定義したいと考えている。

【2】 課題研究

① 各研究会による課題研究のテーマ

■教育資料研究会

テーマ： 教育実践における知のサイクルと新たな学び

【コーディネータ】加藤 直樹（岐阜大学）、齋藤 陽子（岐阜女子大学）

【要旨】

将来を考えるためには、現在と過去との間を常に問い直すことが重要であると考えます。「教育の在り方」も正にそうであり、過去の教育実践者はどのような教育を行い、知を蓄積し、その知は、現在の教育の課題解決に活かされているのか。この教育実践の「知のサイクル」を問い直す必要があるのではないのでしょうか。そこで、教育資料研究会では、本年会テーマの「AI 時代を見据えた教育の在り方」に迫るべく、現在の様々な教育実践を問い直すことを行いたいと考えます。

「知のサイクル」の形成には二つの側面があります。ひとつは、教育実践に潜む知識を明確にする研究で、経験や勘を、AI 等を活用しながら解明することを試みたり、その要因を決定したりする側面です。もうひとつは、情報から何が重要かを判断し、自ら問いを立ててその解決を目指し、他者と協働しながら新たな価値を生み出していくことのできる学習者の資質・能力育成の側面です。

「知のサイクル」を念頭に、それが未来へどのように発展的にサイクルしていくのかの協議をとおして、これからの新たな学びの在り方を考えていきたいと思えます。様々なお立場の皆様からの多様な実践のご発表をお待ちしております。

■国際交流研究会

テーマ： 教育・研究のグローバル化の現状と課題を再考する

【コーディネータ】陳 那森（関西国際大学）、清水 義彦（富山県立大学）

【要旨】

国際交流研究会では、教育のグローバル化に伴って発生している様々な課題の抽出と解決策を検討するとともに、グローバル人材育成のための教育システムの在り方について研究している。また本学会と海外の学会等との学術交流を如何に推進していくかについて協議している。

本研究会が発足から6年目を迎える今回は、これまでの研究活動の成果を検証するとともに、研究会として今後取り組むべき課題を改めて検討する機会としたい。また、本研究会の課題研究では毎年海外の研究者にも参加していただき、日頃の研究活動の成果を発表して頂いている。今回の課題研究でも海外の研究者に自らの研究成果を発表する機会を提供するとともに、日本の研究者にも国際研究交流の立場で幅広い分野からの研究成果を発表する機会を設け、国際研究交流を活発化していきたい。

■デジタルアーカイブ研究会

テーマ： 多様なデジタルアーカイブ化と価値創造

【コーディネータ】井上 透（岐阜女子大学）、皆川 雅章（札幌学院大学）

【要旨】

この課題研究では、現在進行している多様なデジタルアーカイブ化の取り組みが知識循環型社会の知識基盤として、今日的、そして将来的に持つ意義を考え、AI時代を見据えたデジタルアーカイブの在り方を議論します。現在、国レベル、地域レベルを問わず、インターネット上の動画サイトなどを介して、タイムリーに世界に向けた発信が可能となっています。このようなダイナミックな環境に適応していくために、アーカイブ化されたデータから新たな価値を創造し、情報発信と活用につなげていくことがもとめられています。その実現に向けてはさまざまな角度からの検討が必要とされます。アーカイブ化の実践事例、新たな視点でのアーカイブ化、アーカイブ化における理論構築やAIの利用など、デジタルアーカイブの今日と将来を考えていくための材料となる幅広い発表を募集します。

■著作権等研究会

テーマ： 権利処理の現状と課題

【コーディネータ】坂井 知志（国士舘大学）、塩 雅之（常磐大学）

【要旨】

ホームページやSNS等の教育・研究のデータは毎年飛躍的に増大するが、権利処理の方法は確立されているとはいえない。世界的には意思表示システムとしてクリエイティブコモンズライセンスを利用することが広がっているが、肖像権や個人情報、プライバシーを表示する仕組みは包含されていない。また、意思表示をコンテンツごとにどのように示すことが適切であるかということは定着していない。そのような現状の中で、著作権などの権利処理の許諾書が流通され始めている。デジタルアーカイブ関係の学会では、肖像権のガイドラインを公開している。また、中央省庁の防衛省は他の省庁と権利処理の考え方を同じくはしていない。

このような状況を踏まえ、教育コンテンツの流通をスムーズにするための権利処理の方法や仕組み、許諾方法についての提案と実践を議論する。

■ICT活用研究会

テーマ： 多様な受講者に対するICTの効果的な活用

【コーディネータ】河野 敏行（岡山理科大学）、坂井 岳志（八幡小学校）

【要旨】

2020年、小学校のプログラミング教育必修化が始まり、教育の在り方や問題点が議論されています。さらにAI技術は産業界だけでなく、日常生活にも影響を与え、そして教育界においてもAIを活用した教育方法、そして、将来AIを利用する人材を養成するための教育を行っていく必要があります。そのためにも多様な受講者に対してICTを効果的に活用し、AIに関するリテラシーも高めて行く必要

があります。そのために、以下のテーマを設けています。

1. ICT を効果的に活用し、創造的能力・プログラミング的思考力・AI リテラシーを養う教育
2. プログラミング教育の具体的な内容と方法について検討、提案
3. ICT の活用促進のための具体的な環境の整備や教材開発
4. 1 人 1 台時代の学習を支える学校や授業の在り方についての研究
5. 学校教育と地域を巻き込んだ学習環境の構築
6. 小学校から大学そして社会人に向けた教材開発
7. 生涯教育などを支える教育サポートシステムの構築
8. 時間と空間を超えて研究や学習者とのコミュニケーションをサポートするネット会議システムの開発および活用

■特別支援教育 AT 研究会

テーマ： 困難さに応じたアシスティブ・テクノロジー

【コーディネータ】小川 修史（兵庫教育大学）、新谷 洋介（北海道高等聾学校）

【要旨】

中央教育審議会において、障害に応じた指導上の工夫の示し方を、従来の「障害別の配慮」から、「学びの過程で考えられる困難さ」とする改善の方向性が示された。これを受けて、小・中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説の各教科における障害のある児童・生徒への配慮についての事項の記述は、「障害のある児童などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。」とされた。また、教科毎の例として【困難さの状態】に対する【指導上の工夫の意図】＋【手立て】の構造で示された。

アシスティブ・テクノロジーの利用において、困難さの状態や、指導上の工夫の意図を考えることは重要な要素である。そこで、特別支援教育 AT 研究会では、課題研究のテーマとして「困難さに応じたアシスティブ・テクノロジー」を設定し、最新の技術や活用方法について議論する。

■IR 研究会

テーマ： インスタテューショナル・リサーチの理論と実践

【コーディネータ】石井 雅章（神田外語大学）、森 雅生（東京工業大学）

【要旨】

インスタテューショナル・リサーチ (IR) は、大学の経営および運用における様々な意思決定支援、計画策定のツールとして、日本においても普及・浸透している段階といえる。従来は、IR が対象とする教学・研究・経営という代表的な領域において、例えば「データ収集プロセス・手法」や「中退予防」、「研究資金配分」などのテーマのように、大学全体としてのマクロ視点における意思決定支援に焦点をあてた研究が主流であったが、最近では個別の科目レベルや設備・備品管理等の運用レ

ベルの課題を対象にした研究が登場してきている。本研究会では、IRに関する理論的研究のさらなる構築を目指すとともに、先進的かつ実践的な取り組みを対象とした事例研究を通して、これからのIRの在り方や運用・実践について議論を行う。

■プログラミング教育研究会

テーマ： 新教育課程対応するプログラミング教育のあり方

【コーディネータ】山本 利一（埼玉大学）、小熊 良一（群馬大学）

【要旨】

2020年度より小学校においてもプログラミング教育がスタートする。

- ・なぜ、プログラミング教育が必要なのか？
- ・子どもたちは何を学ぶことが求められているのか？
- ・それによりどのような資質・能力が身につくのか？
- ・どのようにして身についた資質・能力を見取るのか？

プログラミング教育研究会では、それらについて議論したいと思っています。先進的な取り組み、アンプラグド、画面集結型、ロボット活用など、様々な取り組みのご提案を御願いたします。

■教職開発研究会

テーマ： 学習者の意欲関心向上につながる授業設計や教材開発

【コーディネータ】佐藤 典子（甲子園大学）、治京 玉記（大阪夕陽丘学園短期大学）

【要旨】

現代では、様々な情報サービス、情報ツールが存在する。それらを、効果的に活用する必要がある。本研究会では、教員養成における教育課程、方法・技術、評価、および現職教育に関する教授学習モデルや実践的な研究について取り扱う。教員養成、カリキュラム開発は幅広い分野で必要とされているが、一部の分野では行動主義に基づく知識伝授による授業が中心となり、主体的な学びにつながる構成主義的な授業については十分な教育実践が行われていない現状がある。今年度の研究課題は、学生の主体性に基づく課題解決型学習の授業について考え、PDCAサイクルによって教育実践研究を進める事を目的としている。学習者の主体的な深い学びにつながる授業技術、教材開発、評価について、校種、分野を問わず各位の教育実践を紹介いただき討議を深めたい。

【3】 研究発表申込募集

① 研究発表申込み資格

第 1 発表者（当日発表を行う方）は、会員資格（正会員・学生会員）が必要となります。非会員の方は、発表申込までに学会運営本部事務局（jsei@ahiya-u.ac.jp）に申込み、入会登録手続きを行ってください。

会員番号をお忘れの方は、郵送物の宛名ラベルに印字してある 4 ケタの数字が会員番号ですので、ご参照ください。

※研究発表の申し込みや発表原稿の提出時にも、会員番号が必要となります。

② 発表内容について

「教育情報に関する研究」であれば特に内容は問いません。「教育情報」とは、「教育に関する情報」と「情報に関する教育」の内容となります。一般研究発表では、希望のセッションを下記より選択してください。

ただし、発表申込状況によっては、希望に添えない場合がございます。あらかじめご了承ください。

＜一般研究発表セッション一覧＞ ※第 2 希望まで選択

- | | | | |
|--------|--------|-------------|--------|
| ・ 情報教育 | ・ 教育方法 | ・ 学習評価 | ・ 教育実践 |
| ・ 教科教育 | ・ 教材開発 | ・ デジタルアーカイブ | ・ 技術教育 |

申込時に選択するキーワードは下記の通りです。

教育情報管理、文献資料、教材、電子教科書、デジタル・コンテンツ、教材開発、メタデータ、情報カテゴリー、シソーラス、デジタル・アーカイブ、知的財産権、プライバシー、カリキュラム、教材研究、学習評価、授業分析、教育システム、交流学习、高大連携、生涯学習、教師教育、情報教育、技術教育、教科教育、情報処理教育、e ラーニング、教育情報システム、学習ソフトウェア開発、学習情報管理システム、データベース、情報検索、インターネット、遠隔教育、遠隔教育システム、ネットワーク、プレゼンテーション、電子黒板、マルチメディア、国際貢献・協力、国際理解、特別支援教育、高等教育、専門教育、初等教育、中等教育、情報モラル、メディアリテラシー、アクティブ・ラーニング、反転学習、FD・SD、IR、接続教育、ラーニング・コモンズ、キャリア教育、児童教育、幼児教育、人間力、企業連携、地域力、地域連携

③ 発表申込み方法に関するお願い

＜1＞ 発表申込み方法

- ・ 第 36 回年会ホームページ（<http://jsei-nenkai.jp/>）の各種申込から、必要事項を入力していただき、お申込みください。
- ・ 年会ホームページ以外での受け付けおよび申込期限後のお申込みは受け付けることができませんのでご注意ください。

- ・申込み後の申込内容変更については、Eメール<jsei-nenkai@jsei.jp>にご連絡をお願いします。

《2》 発表申込み期間

- ・2020年3月1日（日）～4月28日（火）

《3》 申込み完了メール

- ・Web上の[発表申込みフォーム]からのお申込みが完了すると、お申込み時のEメールアドレスへ『発表申込み完了メール』が送信されます。
- ※申込み完了後は『発表申込み完了メール』が届いていることをご確認ください。

《4》 発表採否通知期間

- ・5月11日（月）頃（発表のお申込が完了した方には、発表の採否をメールで連絡します。）

《5》 原稿作成

- ・発表採択の方には、原稿の執筆要項（word）をお送りします。
- ・論文の原稿枚数は、課題研究は **4枚**、一般研究は **2枚**とします。

《6》 原稿提出期間

- ・2020年6月1日（月）～7月10日（金）

《7》 課題研究に関する注意事項

- ・課題研究は各研究会のテーマに沿って研究発表題目をつけてください。
- ・課題研究発表は年会実行委員会で調整し、テーマごとに担当コーディネータが検討し、審査します。その結果、発表「否」となる場合もあることをあらかじめご了承ください。
- ・課題研究として発表できない場合でも、課題研究分を一般研究発表として発表していただくことがあります。
- ・第1発表者として課題研究発表は、1人につき1件のみとします。ただし、年会実行委員会から特に依頼された課題研究発表についてはこの限りではありません。

《8》 一般研究に関する注意事項

- ・第1発表者としての一般研究発表は、1人につき1件のみとします。
- ・発表等の時間は、発表10分、質疑4分、移動1分です。
- ・一般発表は会員の方のみ発表可能です。

《9》 発表申込フォームの書き方

- ・共同研究者は何人でもかまいません。
- ・概要はなるべく具体的に書いてください。
- ・一般研究については、希望するセッションを選んでください。
- ・上記の一般研究発表のキーワードの中から 2～5 語以内を選んでください。
- ・発表者の方へは、発表申込登録内容に関して、問い合わせる場合がありますので、連絡先の変更が生じた際は、年会事務局までご連絡をお願いいたします。

《10》 原稿提出フォームの書き方

- ・原稿は、執筆要綱に従い作成していただき、PDF 形式に変換後、原稿提出フォームからご提出ください。

《11》 参加フォーム

- ・参加申込みの際には、参加費などの振込完了後、参加申込フォームより参加手続きを行ってください。

《12》 発表会場

- ・会場には、プロジェクタが準備されています。パソコンは各自で持参してください。
- ・プロジェクタには、HDMI 端子はございません。VGA 端子が利用できるパソコンをご準備ください。
- ・会場では、eduroam を使用することができます。
- ・会場までのアクセスは年会 HP 内の会場アクセスをご参照ください。

【4】 年会の参加方法

① 参加申込

次号ニューズレターで、申込み方法等詳細についてご案内いたします。

② 各種費用

参加費、年会論文集代、懇親会費は下記のとおりです。

なお、支払方法につきましては、次号のニューズレターでご案内いたします。

○参加費

- ・会員＜事前申込＞ 参加費 3000 円
 - ・会員＜当日申込＞ 参加費 4000 円
 - ・非会員 参加費 4000 円
- ※後援教職員・協賛企業は無料（発表者を除く）

○年会論文集代 3500 円

○懇親会費 5000 円

【5】 年会開催までのスケジュール

- 発表申込期間 2020年3月1日(日)～4月28日(火)
- 発表決定通知 2020年5月11日(月)頃
- 原稿提出期間 2020年6月1日(月)～7月10日(金)
- 参加申込期間 2020年6月1日(月)～8月7日(金)
- 論文郵送申込期間 2020年6月1日(月)～8月7日(金)

広告掲載募集

年会論文集用の広告を募集いたします。広告を掲載頂いた企業の方には、当日会場内ブースにて、無料で製品紹介及び展示等をしていただくことが可能です。また、年会初日には企業ブリーフィングの時間を設けますので PR や情報交換の場として大いにご活用いただければ幸いです。

詳細は以下の通りとなっております。会員の皆さまにおかれましてはお知り合いの関連企業にお声掛け頂き、多くの企業の方にご参加いただけるよう、ご紹介のほどよろしくお願いいたします。

広告掲載申込方法などは HP (<http://jsei-nenkai.jp/>) にて告知します。その他に、ご質問がありましたら、年会事務局 (jsei-nenkai@jsei.jp) までお寄せください。

協賛（料金：¥40000）		
展示（1ブース） 広告1（論文集掲載） 広告2（フライヤー同封）	論文集掲載広告	
	色	1色（モノクロ）
	頁（寸法）	1頁（天地 240mm×左右 160mm）
	形式	Word、JPEG

日本教育情報学会 運営本部事務局

〒659-8511 兵庫県芦屋市六麓荘町 13-22 芦屋大学技術研究棟 若杉研究室
TEL: 090-1026-1413 FAX: 050-3488-5061
E-mail: jsei@ashiya-u.ac.jp HP: <http://jsei.jp/home/>